

教養プロジェクト

経済学科経営学部二年

01155069

永井絵里華

1. ショスタコーヴィチ

1906年9月25日（ロシア暦9月12日） - 1975年8月9日

ソビエト連邦

ソ連によって思想の自由が奪われ、芸術も国家体制維持のために利用するために社会主義国家に役立たない音楽は批判される時代の中、自分の思うように音楽づくりができず苦しんだ。プラウダ批判によって『ムツェンスク郡のマクベス夫人』（1933年）が批判され、ジダーノフ批判では交響曲第九番が批判された。批判があるたびに反省を示さなければならず、大衆にわかりやすい音楽である交響曲第五番、オラトリオ「森の歌」を発表した。オラトリオ「森の歌」は歌詞の最後には「共産主義の夜明けがやってきた！」とあり、その後のスターリン批判の際には歌詞を改訂せざるをえないほどはっきりとわかりやすいスターリン賛美の曲だった。

私が一番好きな曲は、先ほども出てきた有名な交響曲第五番「革命」ではなく、プラウダ批判後一度も交響曲を書かなかったショスタコーヴィチが、スターリンの死後に初めて書いたとされる交響曲第十番だ。この曲には、音楽的署名という技法が用いられている。音名をアルファベットに変更したとき、**Dmitri SCHostakovitch** から、「DHCH」つまりレミドシとなる。この音型が曲中に何度も現れる。第二楽章にはスターリンの肖像と言われている音型が出てくるのだが、第四楽章において、スターリンの肖像が迫りくるなか、「DSCH」の最強奏がすべてを打ち切るところがある。スターリンの死後すぐに書き始めたことから、いままでさんざん自分を苦しめてきたスターリンに自分が勝利したという宣言のように思われる。このように不遇の中でも音楽活動をあきらめずうまく生き抜いたところがいいと思う。

2. フランツ・リスト

1811年10月22日 - 1886年7月31日

ハンガリー

リストはすごく美形だったらしい。当時のアイドル的存在でもあり、女性ファンの失神が続出したとの逸話も残っている。また、ピアノの魔術師とも呼ばれ、超絶技巧をもっていたという。超絶技巧に当時のピアノが耐え切れず、壊れてしまったという逸話を聞いたことがある。このように、おもしろい逸話が多く残っていることで、リスト自身がどんな人だったのか想像することができ、いいところだと思う。

私がリストの曲の中で好きなのが、「ラカンパネラ」、「ハンガリー狂詩曲 第2番 嬰ハ短調 S.244-2」、「愛の夢」だ。特にラカンパネラはリストの超絶技巧が生かされ

ていて、メロディーだけではなく演奏者の手元を見るのもおもしろい。

3. ドボルザーク

1841年9月8日 - 1904年5月1日

チェコ

ドボルザークはスラヴ舞曲が有名だが、やはり日本で一番有名なのは交響曲第9番ホ短調 作品95、B.178「新世界より」だと思う。この曲はクラシックを普段全く聞かない人でも知っているメロディーが多いため、交響曲を初めて聞く人にはおすすめだ。

4. セルゲイ・ラフマニノフ

1873年4月1日（当時ロシアで用いられていたユリウス暦では3月20日） - 1943年3月28日

ロシア帝国

- ・ピアノ協奏曲2番
- ・パガニーニの主題による狂詩曲

5. フランツ・シューベルト

1797年1月31日 - 1828年11月19日

オーストリア

- ・交響曲第七番「未完成」

6. ジョージ・ガーシュイン

1898年9月26日 - 1937年7月11日

アメリカ

- ・パリのアメリカ人
- ・ラブソディーインブルー

7. リムスキーコルサコフ

1844年3月18日 - 1908年6月21日

ロシア

- ・熊蜂の飛行
- ・展覧会の絵

8. クロード・ドビュッシー

1862年8月22日 - 1918年3月25日

フランス

- ・二つのアラベスク
- ・月の光
- ・亜麻色の髪の乙女 夢

9. ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

1840年5月7日（ユリウス暦では4月25日） - 1893年11月6日（ユリウス暦10

月 25 日)

ロシア

- ・「白鳥の湖」 作品 20
- ・「眠れる森の美女」 作品 66
- ・「くるみ割り人形」 作品 71

10. ヨハネス・ブラームス

1833 年 5 月 7 日 - 1897 年 4 月 3 日

ドイツ

- ・大学祝典序曲 ハ短調 op.80
- ・ハンガリー舞曲